

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

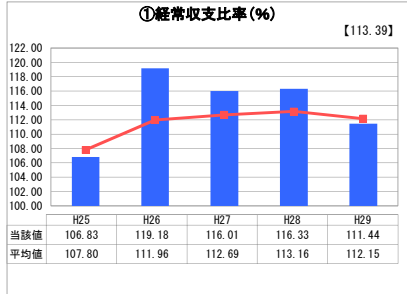
兵庫県 たつの市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	81.69	99.90	1,782	

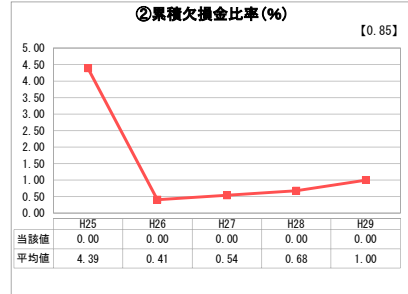
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
77,499	210.87	367.52
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
54,091	78.09	692.68

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

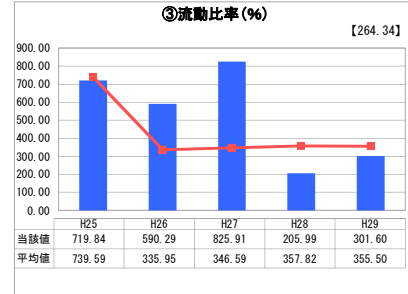
## 1. 経営の健全性・効率性



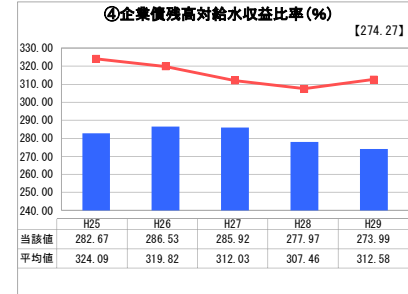
「経常損益」



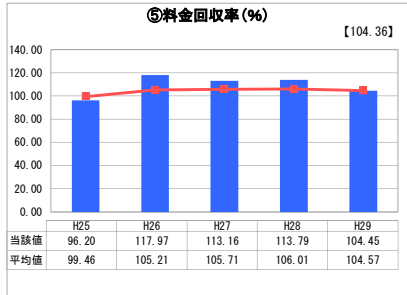
「累積欠損」



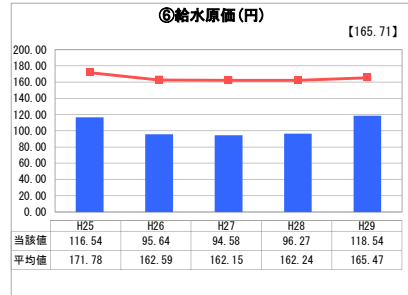
「支払能力」



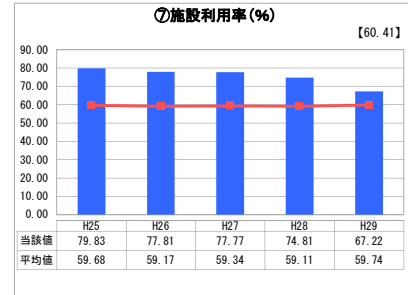
「債務残高」



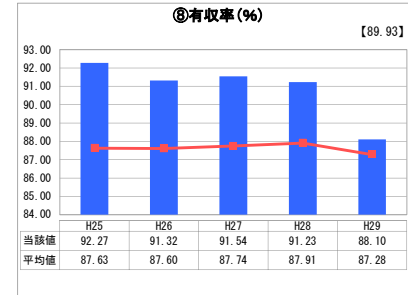
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

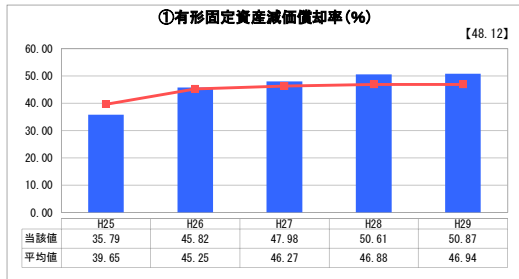


「施設の効率性」

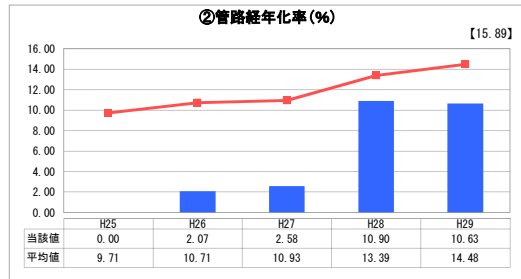


「供給した配水量の効率性」

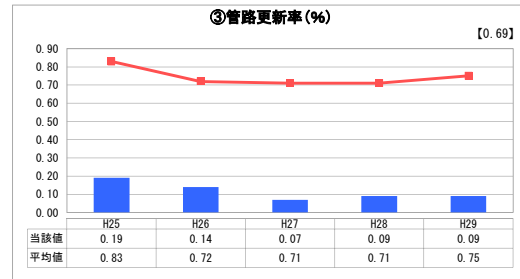
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

(経常収支比率)  
 経常収支の黒字基調を堅持しているものの、平成29年度は全国平均を下回っている。今後の改善点を洗い出し、分析する必要がある。

(流動比率)  
 支払能力については一定程度確保していると考えられるが、今後の現金預金等の状況に注視していく。

(企業債残高対給水収益比率)  
 比率は減少傾向であるが、今後の更新需要について、企業債に頼らず、適正水準を維持していく。

(料金回収率)  
 国平均を若干下回っているが、引き続き経費節減に努めていく。

(給水原価)  
 給水原価は全国平均や類似団体との比較においては低い水準であるが、現行水準を維持できるよう努めていきたい。

(施設利用率)  
 平成29年度において、西播磨水道企業団からの分水を廃止したため、利用率は前年度と比較して、約7.6%低下した。今後の動向を注視しつつ、施設規模の適正化について検討していく。

(有収率)  
 平成29年度は前年度と比較して、3.13%減少し、全国平均を下回った。漏水等の早期発見と施設の更新を進めていくことが急務である。

(総括)  
 経営状況は概ね良好であるが、今後とも健全経営を維持しつつ、有収率の向上のため、計画的な管路更新を進めていく。

### 2. 老朽化の状況について

管路経年化率が上昇している。現行試算によれば、2042年に更新ピークを迎えることが見込まれているが、今の管路更新率では追いつかないため、今後ますます老朽化が進展することが見込まれる。今後、アセットマネジメントにより管路更新の優先順位付けや平準化を図りつつ、施設更新をより効率的に実施するための更新計画を策定していく。

## 全体総括

これまでの経営状況は比較的順調に推移しているが、管路をはじめとする施設の老朽化が進んできており、今後積極的に管路更新を行うなど早急な対策が必要となってきている。今後増加する更新需要に対応するため、適正料金の算定等を見込んだ経営戦略を策定し、安定供給と健全経営を両立できるよう図っていきたい。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。